

公立中高一貫校入選(入試)概況

◎ 公立中高一貫校では、正式には入試とは呼ばず、行政に合わせて「入学者選抜(略して入選)」の用語を使用しています。

◆ 東京都

東京都の公立中高一貫校は11校で、11校合計の応募者数は、2016年が9,737名余り、一昨年は9,248名、昨年は9,094名と減少が続いていましたが、今年は9,156名と、小幅ですが増加に転じました。23区は減少が続いていますが、多摩地区は増加しています。東京都教育委員会は昨年、一貫校で高校募集を行っている白鷗高附属、両国高附属、大泉高附属、富士高附属、武蔵高附属について、高校募集停止・完全一貫化の方針を打ち出しましたが、「2021年度以降段階的に実施」が選抜後の2月14日に発表されたため、今回の応募状況には影響は見られませんでした。

まず区立の**九段中等**から。同校は応募枠が区分A(千代田区民枠)と区分B(千代田区民外枠)に分かれています。昨年の区分Aは男子の応募者がやや減、女子は前年並みでしたが、今年は男子が増加、女子は昨年並みで安定しています。区分Bは、昨年在男女ともに微減で、今年は男女とも減っています。区分Aの男子は受検者数もかなり増えていて、少し難化したようです。女子も受検者数は増えていますが、こちらは難度が変わるほどではないようです。区分Bは受検者が減っていますが、もともと高倍率だったので、男女とも目立って難度が変わるようなことはなく、若干入り易くなったかどうか、といったところでしょう。

続いて都立です。**白鷗高附属**は昨年、検定試験の特別枠をなくし、代わりに海外帰国生・在留外国人の応募枠を設定、一般枠の定員を削減して、一般枠の適性検査はⅢまでになりました。伝統文化の特別枠は今年も小規模の選抜でした。2年目になった帰国・外国人枠は男女とも応募者が増加、特に男子は4倍を超える実質倍率で厳しい選抜になっています。女子も2倍を超えました。一般枠は、男女とも若干応募者が減りましたが、昨年並みと言ってよい人数で、難度に特に変化は見られません。**小石川中等**の特別枠は、今年も小

規模の選抜です。一般枠は男子の応募者がやや減って、女子は少し増えています。男子は隔年現象ですが、女子は小幅の増加が続いて人気が上がっています。男女とも増減が小幅ですので、難度に特に影響はなかったようです。

両国高附属は、昨年は男子の応募者が微減、女子は減っていましたが、今年は男子が増加、女子は昨年並みでした。同校は高倍率による敬遠ムードが見られましたが、一段落したようです。男子はやや難化したかもしれませんが、女子は昨年並みの難度でしょう。**桜修館**は昨年、男子の応募者が減少、女子は前年並みでしたが、今年は男子が昨年並み、女子は少し増加しています。やはり高倍率による敬遠傾向が一段落したようです。女子の増加も小幅なので、男女とも難度は昨年とあまり変わっていないようです。

大泉高附属は昨年、男子の応募者が増えて女子はやや減っていましたが、今年は男女とも少し減っています。受検者数も男女とも減っていて、高倍率ではあるものの、難度面ではボーダーライン付近が少し緩和したかもしれません。**富士高附属**は昨年、男子の応募者が減少し、女子もやや減っていましたが、今年は男子が昨年並み、女子は今年もやや減った応募者数でした。女子は隔年現象での応募者の増減が見られましたが、傾向が変わってきたようです。ただ、難度が変わるほどではなく、男女とも昨年並みの難度が続いているようです。

続いて多摩地区です。**三鷹中等**は、昨年は男子の応募者がやや減少、女子は前年並みでしたが、今年は男子が昨年並み、女子は大幅に増えています。高倍率による敬遠ムードは昨年で終息したようで、人気が上がっています。男子は昨年並みの難度だったようですが、女子は難化した厳しい選抜でした。**立川国際**は帰国・外国人枠、一般枠の男女とも昨年は応募者が減っていましたが、今年は帰国・外国人枠の男女、一般枠の女

子が昨年並みの応募者数でした。男子の一般枠は今年もやや減っています。男子は高倍率の敬遠ムードがまだ続いているようですが、女子は一段落したようです。男子の一般枠は昨年よりも欠席者が減ったこともあって、男女とも難度はあまり変わっていないようです。

南多摩中等は、一昨年が男女ともに応募者減少、昨年は男子が増加、女子は微増で、今年は男子がやや増加、女子は目立って増えました。高倍率の敬遠ムードに歯止めがかかり、人気が反転しています。男子の増加は小幅なので難度はあまり変わっていないと考えられますが、女子は少し難化したようです。**武蔵高附属**は一昨年が男女とも応募者減、昨年は男子が微増、女子は微減、今年は男子が昨年並み(厳密には微増)、女子は増加しました。同校も敬遠ムードに歯止めがかかり、人気を上向いています。男子は昨年並みの難度だったようですが、女子は少し難化したかもしれません。

ところで、毎年合格者の中で入学を辞退するケースがありますが、今年は**小石川中等**の男子で13名が辞退しました。女子も8名辞退していて、他に**桜修館**の男女子各9名、**大泉高附属**の男子6名と**武蔵高附属**の男子5名も目立ちます。いずれも難関私立の併願者ですが、全体の辞退者数は昨年より減っています。

◆ 神奈川県

県立の**相模原中等**は昨年、男子が前年並みの応募者数、女子は増えていましたが、今年は男子が若干減って、女子は昨年並みでした。男子の減少は若干ですから入り易くなることはなく、女子も含めて昨年並みの難度でしょう。**平塚中等**は一昨年、昨年と男女とも応募者が少しずつ増えていました。女子は今年も増加が続いていますが、男子は一段落で少し減っています。同校も、男子が減ったとはいえ入り易くはなっておらず、男女とも難度面では変化がなかったようです。

一昨年に開校した**サイエンスフロンティア高附属**は、開校初年度は男子が10倍強、女子も5倍を超える人気でしたが、昨年は男子が敬遠して応募者が大きく減り、女子は前年並みでした。今年はさらに人気落ち着いたようで、男女とも応募者が少し減っています。しかし、入り易くなるほどの減少ではなく、難度面は昨年並みのレベルが続いているようです。**横浜市立南**は一昨年、昨年と、サイエンスフロンティア高附属の開校もあって、応募者が男女ともに大きく減っていました

が、今年は男子が昨年並みの応募者数、女子も少し減ったものの減少数は小さくなりました。人気落ち着いたようになってきたようです。昨年は、少し入りやすくなったようですが、今年は難度に特に変化はなかったようです。

開校6年目の**市立川崎**は、一昨年までの応募者の減少が、昨年は若干増加に転じ、今年は少し減った応募者数でした。開校時の人気落ち着いたままです。難度も、特に昨年とは変わっていないようです。

◆ 千葉県・埼玉県

千葉県の公立中高一貫校は、**県立千葉**、**市立稲毛**、**県立東葛飾**の3校です。まず開校4年目の**県立東葛飾**から。開校時の人気落ち着いたまま、一昨年、昨年と応募者が減ってきましたが、今年は反転して男女とも応募者が増えました。1次合格者が2次を受検する2段階選抜ですが、応募者の増加で1次はやや難化したかもしれません。ただ、男子の2次の棄権率は少し増えています。難関・上位私立中との併願者でしょう。こうした児童が増えることは、常磐線沿線の中学受験にしっかりと定着したことを示しています。2次の難度は昨年とあまり変わっていないようです。

県立千葉は、昨年が続いて男子の応募者がやや減少、昨年は前年並みだった女子も今年は減っています。公立一貫校の中では首都圏最高難度と言われる同校ですから、少し敬遠傾向が出てきたのかもしれませんが。県立東葛飾と同様の2段階選抜ですが、1次の実質倍率はまだ高水準で、厳しい選抜が続いています。2次の棄権率は昨年より少し下がっていて、トータルの難度は昨年並みでしょう。**市立稲毛**は、昨年は男女とも応募者が減っていましたが、今年は男子が増加、女子は昨年並みでした。同校は県立の2校と違って2段階選抜ではなく、1回の選抜で合否が決まります。男子はやや難化、女子も昨年並みの難度だったようです。

続いて埼玉県です。**市立大宮国際中等**が新設開校で、県内の公立中高一貫校は3校になりました。その**市立大宮国際中等**は160名募集のところ、1,000名を超える応募者が集まりました。実受検者も996名で、1次は男子1.82倍、女子2.33倍、1次合格者が受検する2次は男子2.55倍、女子2.64倍の実質倍率でした。難度面は今後公開テスト会などが集計してみないと何とも言えませんが、**市立浦和高附属**よりも少し高かったかもしれません。**市立浦和高附属**は、男子はこのとこ

る隔年現象が目立っていて、今年は順番通り増加、女子は安定した応募者数が続いていましたが、こちらも今年は増加しました。人気が上がっている面はありますが、**市立大宮国際中等**と**市立浦和高附属**では1次の日程が異なっていて、両校の併願が可能だったことも応募者の増加につながっています。市立浦和高附属は、2次の欠席が増えたため、やや入りやすくなったかもしれません。

市立大宮国際中等と**市立浦和高附属**は上記の通り1次の日程が異なっていますが、2次は同一で、両校の1次の合格者はどちらかを選んで2次を受検します。市立大宮国際中等の1次合格者の2次受検率は男子が85%、女子は88%でしたが、**市立浦和高附属**は男子が71%、女子は64%で、**市立大宮国際中等**を選んだ児童が多くなりました。昨年まで、**市立浦和高附属**は男女とも97~100%の受検率でしたから、大きく変化しています。

県立の**伊奈学園**は、昨年は男女とも応募者が減っていましたが、今年は男子がやや増加、女子は少し減って合計では昨年並みです。県立ですからさいたま市在住の児童も含めて全県から出願できますが、応募状況を見る限りは、日程が重ならなかった**市立大宮国際中等**の影響はあまり見られず、1次合格者の2次受検率も例年と変わっていません。応募者、受検者、合格者とも女子の方が多いいのも例年と同様で、難度も昨年とあまり変わっていないようです。

◆ 茨城県・栃木県

茨城県には3校の公立中高一貫校があります。3校とも2019年度から高校段階(後期課程)で医学コースを新設するため、注目されています。**並木中等**は、昨年は男女とも応募者が減少しましたが、今年は増加しました。隔年現象です。やや難化したかもしれません。**日立第一高附属**は男女とも応募者が少し減っています。

昨年は男女とも約3倍の倍率でしたが、不合格者が多いことから、少し敬遠されたのかもしれませんが。難度は特に変化はなかったようです。開校6年目の**古河中等**は、男子の応募者は昨年並みで、女子は少し増えています。男子は昨年も前年並みで安定した人気、女子は昨年から減少していましたから隔年的な変化です。同校は立地的に埼玉県の私立中学校の通学圏と重なり、東京都内に向かう受験生もいるため、こうした影響も見られます。同校も、難度は特に変わっていないようです。

続いて栃木県です。栃木県にも公立中高一貫校は3校あります。**宇都宮東高附属**は昨年に続いて今年も男女ともに前年並みの応募者数で、人気は安定しています。難度面でも特に変化はなかったようです。**佐野高附属**は、男子の応募者がやや減り、女子は目立って増えています。昨年とは逆の動きで、隔年現象です。難度面では少し難化したかもしれません。**矢板東高附属**は、男子の応募者が若干減、女子は減っています。昨年まで男子は隔年現象が見られ、女子は安定した応募者数が続いていたので、少し傾向が変わってきたのかもしれませんが。地域の児童数も影響しています。難度面では、やや入りやすくなったかどうか、といったところでしょう。

◆ 寮制校の東京入試

公立中高一貫校でも寮制入試を行う学校があります。**鹿児島県立楠集(なんしゅん)中学校**で全寮制公立中高一貫男子校です。生徒は鹿児島県民に限らず全国募集、東京でも選抜を実施しました。今年の東京会場の受験者数は本校執筆時点では未公表ですが、県外各会場合計の応募者数は昨年より少し増えています。ただ、鹿児島県内の応募者数が減っていますので、少し入りやすかったかもしれません。

☆ 都立白鷗高附属の特別枠の内訳

分野	募集定員	応募者数		受検者数		合格者数	
		男	女	男	女	男	女
囲碁・将棋	6名程度	1	1	1	1	1	0
邦楽		1	0	1	0	0	0
邦舞・演劇		2	0	2	0	1	0